令和５年度　第１回さいたま市博物館協議会　会議録

開催日時　令和５年８月２３日（金）午後２時から午後４時
開催場所　さいたま市立博物館　講座室
出席者名　委　員　：江里口友子委員長、新美和子副委員長、神田真仁委員、小宮るり子委員、杉山正司委員、千葉諭美委員、橋本正晴委員、初音みね子委員、坂野千登勢委員、広田由子委員、松岡聖子委員、宮瀧交二委員、亘理隆委員、伊藤さおり委員
（欠席：小田切倫子委員）
事務局　：博物館長、博物館長補佐兼事業係長、博物館長補佐兼管理係長、同事業係主事、浦和博物館主幹、浦和くらしの博物館民家園主査、旧坂東家住宅見沼くらしっく館主査、与野郷土資料館主査
傍 聴 人　なし

さいたま市博物館条例第１４条に基づき、令和５年度第１回さいたま市博物館協議会を開催しました。

会 議 名　令和５年度第１回さいたま市博物館協議会

博物館館長補佐兼管理係長の司会により開会し、任命書交付式、生涯学習部長のあいさつに続き、さいたま市博物館協議会規則に基づき正副委員長を選出、正副委員長あいさつの後、委員長が議長になり議事に移りました。

議　　事

議　　長　　それでは議事に入ります。はじめに令和４年度の事業報告についてです。委員の皆様には予め目を通していただいていると思いますので、直接この資料の１ページから９ページの間の事業報告についてご意見や、ご質問がありましたらお願いいたします。

杉山委員　　２ページの教育普及事業のおうちミュージアムとスタディミュージアムは、両方ともホームページ発信になっていますが、どう違うのかをまず教えてください。また、資料燻蒸及び殺虫消毒が他の館では入っていないのですが、いわゆる資料管理や建物管理に関しての燻蒸消毒というのはどうなっているのかも教えてください。

事 務 局　　まず、おうちミュージアムでございますが、子どもが自宅でできる工作を紹介しているコンテンツで、ＰＤＦファイルを添付して、わかりやすく作ることができるように工夫して発信しているものです。スタディミュージア

ムにつきましては、さいたま市の歴史や地理に関することを、クイズ形式で学ぶことができるコンテンツです。

事 務 局　　市立博物館では燻蒸を毎年行っています。浦和博物館は２年に１回行っていて、令和４年度に実施しました。民家園などの収蔵資料が少ない所の資料で燻蒸の必要があるものは事前に市立博物館に持ってきて行っています。

杉山委員　　ありがとうございます。

議　　長　　他に何かご意見や質問はありますか。

宮瀧委員　　要望に近いためご回答いただかなくても結構です。事業を拝見していると、コロナ禍も過ぎて体験ができる事業が多いのは非常に良いことだと思います。一方で懸念されるのが、学芸員資格を持っている方は学生時代に博物館が実物資料をもとに学ぶ教育機関だということは承知していると思いますが、学校から博物館に出向されている先生方は、博物館学を履修されていないので、ワークショップの作業だけがメインになりがちになっていることです。勾玉を作るとか、火を起こすとか、そのことだけで事業が終わってしまうと、面白いとは思いますが教育機関として不十分です。私がだいぶ前に、勾玉作りをお手伝いしたときは、子供たちは早く石を削りたい気持ちもあったと思いますが、その前に 10 分ほど時間をもらって、縄文時代から今日に至るまでの日本の歴史の流れの中で、装身具がどのように推移してきたのかという話をしました。例えば平安時代は、十二単を着て一見あでやかなようですが、女性は装身具を身に着けていません。縄文時代は男性も女性もピアスをしていて、ジェンダー的に大変おもしろい時代です。勾玉の登場がいつからなのか、形が何を意味がしているのか、或いは勾玉は日本以外にはなかったのか、やはり博物館らしく装身具の歴史をきちんと勉強してもらった上で作りましょうとするのが良いと思います。作業だけがメインになってしまっては、公民館の活動と変わらなくなってしまいます。もちろん公民館もきちんとレクチャーをしなくてはいけないと思いますし、いろんな体験があって楽しいと思いますが、それを体験することがどういう勉強に繋がるのか、どういう時代の歴史像を知ることになるのかということをレクチャーするというのが、最近全国的にやや希薄になっています。市立博物館も、多くの体験講座を行っているのは良いことですが、ぜひ実物資料から地域の歴史を学ぶ教育機関だという原点を忘れずに普及事業に生かしていただけるように、より一層励んでいただけたらと思います。

議　　長　　昨年度も、事務局から、事前に学習してから体験を行っているという話はありましたが、いかがでしょうか。

事 務 局　　与野郷土資料館では、勾玉作りの体験講座 120 分のうち冒頭の 10 分で勾玉についての学習をしています。クイズ形式で、作られた時代や形の意味、

役割について学習します。正解は一つというわけではなく、複数の正解があります。また、さいたま市の側ヶ谷戸古墳群から出土した勾玉の写真も見てもらったり、講座終了後には土製の勾玉も紹介しています。ただ作るだけでなく、勾玉の意味を知ったうえで作ってもらうようにしていますが、子供たちは勾玉を作りに来ていますし知識の説明が長くなってしまうのもよくないので、学習の時間を 10 分程度に設定しています。

議　　長　　工夫しているということですね。

宮瀧委員　　勾玉がわりとやりやすいと思います。扇子なども、平安時代の女性にとってどういった物だったのかなど、やはりすべてのことについてレクチャーをすると良いと思います。先ほどの、答えが複数あってどれも正解というのはすごくいいですね。どうしてもマルかバツの２択というようなお子さんがいる中で、こういういろんな可能性があるという取り組みは素晴らしいと思います。ぜひ続けてください。

議　　長　　他にご意見はありますか。

亘理委員　　さいたま市民として率直なお話をさせていただきたいと思います。市内の博物館を見た中で、市立博物館は、遺跡の発掘現場のジオラマや農家の再現、ハンズオン展示もあり、教育活動では学年別のマークシートがあり、認知活動や講演、市民大学や古文書講座などのワークショップや考古学の研究が充実していると感じました。ただ、残念なことは施設が古いことです。さいたま市になったのに大宮・浦和・与野・岩槻と別々に昔が残ったままだと感じます。分散することで予算的にも厳しいのではないかという気がします。もちろん地域に密着した博物館という考えもありますが、ただやはり政令指定都市の博物館としては非常に残念ですし、展示手法としては非常に古いと思います。昭和を感じます。最近できた与野郷土資料館については新しいので展示の仕方が全く違います。川越市立博物館はジオラマがあり非常にビジュアルでした。また埼玉県立自然の博物館も非常に良かったです。川の博物館もジオラマを導入しています。さらに平塚市博物館も非常に活動が充実しています。少しさいたま市は残念かなと思い、市内の施設の管理運営事業費を調べました。うらわ美術館は令和 5 年度予算として管理運営事業に 4 億 2000 万がついていますが、今回は施設修繕があるので運営上はおそらく 3200 万ほどだと思います。また、宇宙劇場の管理運営事業が 2 億 2000 万ですが、これは指定管理者制度で人件費分です。青少年宇宙科学館の管理運営事業が 2 億円、文化財保護事業で 1 億 6700 万円、市立博物館の管理運営事業は 6100 万円のうち維持管理費が 5100 万円なので実際には 1028 万円、浦和博物館の管理運営事業は約 500 万円のうち維持管理費が 350 万円ですので活動費が 150 万円です。民家園の管理運営事業は 1300 万円の

うち維持管理が 1260 万円で、37 万 2000 円しか活動費がありませんでした。見沼くらしっく館も 470 万円の予算のうち維持管理費が約 430 万円なので、37 万 9000 円しかありません。現場の職員がとても頑張っているのではないかと思います。ですので、市長に、政令指定都市の博物館として今の状況はおかしいのではないですかということを申し上げた方が良いのではないかと思います。改築の内容はよく分からないのですが、例えば 1993 年に開館した江戸東京博物館も今改築しています。2006 年に県立博物館と民俗文化センターが統合して開館した埼玉県立歴史と民俗の博物館も改修工事をして、もう間もなく再開するかと思います。さきたま史跡の博物館も改修工事に入ります。佐倉市にある国立歴史民俗博物館も設備工事で閉室する展示室があるようです。このように開館した年が比較的新しい施設でもこれだけ修繕をやっていました。しかし 1972 年に開館した浦和博物館は 2021 年にリニューアルしていますが、大宮市立博物館が開館したのは 1980 年、岩槻郷土資料館が開館したのが 1982 年です。もう少しさいたま市も頑張って欲しいなと思います。市長に近隣の博物館を見てもらって、今の博物館はこんなにすごいんですよと、政令指定都市の博物館としてこれでいいのですか、というような話をしないといけないのではないかと思いますが、どうでしょうか。

議　　長　　なかなか事務局から答えづらいかと思います。例えば協議会でこういう意見が出たというのと同時に、市民からの盛り上げというのは重要だと思いますし、内部から出すよりも外部から出すほうが、意見が通りやすいと思います。私たちの、市の博物館を何とかしようという声をどんどん上げていけば変わっていくと思うのですが、いかがでしょうか。

事 務 局　　ご意見のあった通りの現状ではありますが、それぞれの館の設立の趣旨が、当時の旧市で作られた関係もあり、地元のアイデンティティを維持しつつ、必要な修繕をその都度やりながら現在に至っています。収蔵資料に関しては浦和博物館、さいたま市立博物館では飽和状態です。寄贈いただく資料も限定して、大型の物や同じものが複数個ある場合などは取捨選択しながら資料を収集しています。現状としては旧地域に設立した当時の趣旨にのっとりながら、運営しています。

亘理委員　　浦和博物館、見沼くらしっく館、民家園は非常にアクセスが悪いです。車なら数キロほどと近いですが、車がない人にとっては非常に不便なので、例えば各館を巡ってもらう有料のバスツアーをしたり、スタンプラリーを開催して全部集めた人にはカードなどの景品を渡したり、そのような形でもう少し盛り上げたいなと思いました。また、浦和博物館、くらしっく館、民家園と見沼田んぼを合わせてエコミュージアムのようなものができないか

ということも含めて考えてみたら良いのではないかと思いました。特に博物館法が改正され、文化観光ということもありますので今までと違う発想でやらないといけないと思いますし、外から人集めなければいけないと思います。今、さいたま市の博物館は全館無料ですが、有料でも来館者を集められるぐらい魅力あるものにしてほしいと思います。

広田委員　　おそらく重要なことは２つあり、１つは来館者数で、もう１つは博物館関係にどれぐらい予算が割かれているかだと思います。先ほどの予算を他の政令指定都市と比較した場合に市全体の予算の中でどれぐらいの割合が割かれているのか、それがさいたま市が著しく低いのであれば改善していくような形で提言することもできると思います。逆に他の政令指定都市と割合が変わらないのであれば、内訳を見る必要があると思います。難しい問題ですが重要なことだと思います。

坂野委員　　川越市はやはり観光を目玉にしているため博物館はとても綺麗です。さいたま市の博物館は各市が合併したことから従来の趣旨で運営されていますが、さいたま市全体として複数ある博物館をネットワーク化するなど、どのような形で全体を方向づけていくのかが重要だと思います。お金が出てくるのが先かもしれませんがビジョンを相談すると、そこに向かっていけると思います。さいたま市としてどう運営していくのか、どのようなコンセプトとしていくのか、この委員会で考えていくのだろうと思っています。

宮瀧委員　　最新の展示装置も確かに大事だと思います。一方で、予算がなくても見ごたえのある展示をしている市区町村はたくさんあります。ふじみ野市の博物館は戦時下にあった軍事工場の調査を学芸員が行っていて、毎年夏に調査に基づいた戦争関連の展示を、周辺の川越市から資料を借りたりしながら、ほとんど手づくりしています。入間郡の毛呂山町の郷土資料館も手づくり展示ですが、行くとその熱意が伝わります。最新の装置が必要なのはありますが、それと同じぐらい大事なのはさいたま市の市民が知りたいことを展示で表現できているかということです。高価な展示装置があればいいということだけはありません。また、学芸員は他の博物館の展示をたくさん見なければいけません。博物館が休みの月曜日は、他の館も休みで見に行けないですから、出張した時に足を延ばすのが良いと思います。埼玉県内はすごくいい展示をしている市町村もありますし、そういうところをお互い見たり、展示を共催したりして、各館で巡回するなど様々な方法があると思います。予算がないならないなりに頑張るということも１つの方法だと思います。

千葉委員　　まず早急に直してもらいたいのがお手洗いです。いい展示を作ることも

大事ですが、その前にお手洗いを直してもらいたいです。女性用は、ほとんどが和式トイレで良くないと思います。オストメイト用もあった方がいいと思います。また、オストメイト用は奥に作るのではなく、出口に近いところに作るべきだと思います。いろいろなところにお金をかける前にまずお手洗いを直したほうが良いと思いました。

先ほどのお話にもあった通り、お金をかけなくても工夫のやり方はたくさんあるのではないかと思います。お金があればそれに越したことはありませんが、ないのであれば知恵を出すしかないですし、そのためにこういう職業の方がいますし、やり方や見せ方があるし、ネットワークは非常に重要かなと思いました。さいたま市には色々な博物館がありますが、おそらくそれぞれ独自に頑張っていて、各館同士で協調や協同をしているか疑問に感じました。例えば、キャンペーンのように一斉に同じようなことをするとか。次年度に鴻沼の企画展をやるようですので、その時には鴻沼資料館と協同するでしょうし、うまい協同の仕方をして、こっちでやるからあっちでもやる、相互に関係性を求めるほうが良いかなと思いました。

最後に素朴な疑問ですが、ホームページを見ていると特別展、企画展、その他とあります。各自のカテゴリーの切り分けの定義は何でしょうか。

事 務 局　特別展は、さいたま市立博物館で年１回秋の時期に行う展示を指します。例年 10 月から 11 月ごろに、予算をある程度割いて実施しています。企画展は、かつては年に複数回実施していましたが、現在はテーマ展示として収蔵品を中心に１つのテーマを組み立てて、３月から５月の連休終わりくらいまで行っています。現在は、特別展、企画展１回ずつ行う形で定着しています。その他というのは、常設展示の一部を学芸員が展示替えしているものを指します。展示替えでは、テーマ性を持った資料を展示しています。現在は関東大震災発生から 100 年をテーマとした展示を地下で行っています。

神田委員　まず、１点目は全体に当てはまりますが、入館者数が、コロナが明けて増えたというお話もあったと思います。実際、このくらい来ると予想した数に対して実際来ていたのか、来ていないのか、その数が多いのか少ないのかが分からなかったです。ですので、もし意図していた入館者数より少ないのであれば来館者が増えるような仕掛けを考える必要がありますし、そうでないのであれば成功と言えるのかもしれません。そのあたりをお聞きしたいです。

２点目は、市立博物館が開催している古文書講座を見て、とても行きたかったのですが、木曜日開催で、自分は対象外だと思いました。仕事を辞めた人が来ることが前提のように見えてしまったため、それ以降、各博物館のイベント情報を見なくなりました。こういう講座が平日ではなく休日開催だと嬉しいと思いますが、あえて平日開催している理由を、過去に土日に開催して

人が来なかった経緯があったのかも含めて教えてほしいです。３点目は、ホームページについてです。先ほどお話があった通りホームページ上で、どういう意図で展示が分けられているのかという説明がなかったと思います。また、他のホームページと比較すると、少々見にくいと思います。他の自治体の博物館もいくつか綺麗なホームページがありますので、見やすいホームページにするというだけでも変わる気もします。先ほどもお話があったように観光も含めた形で博物館を見るという流れに今なっています。そこにおいても訴求効果があると思います。４点目が先ほどのお話にあった他館との共催の話です。共催に関して、もしできたら面白いのかなと思ったのが、この後お話がある鴻沼の開拓を手がけた井沢弥惣兵衛はさいたま市に限らず広範囲にわたって新田開発を手がけています。彼が手がけた地域の博物館も交えながら、井沢弥惣兵衛の展示を企画し、相互送客するような仕組みがあれば効果があるかなと思いました。

議　　長　　事務局お願いします。

事 務 局　　まず入館者についてですが、コロナ禍で臨時休館した令和元年度はかなり落ち込んだので令和３年度については想定できませんでした。どのくらい多くなるのか、さらに減るのか、同等なのかというのは予測できなかったということです。今回、令和４年度の入館者数が出ましたが、平均して 20%ほど増えています。一気に回復するとは思っていませんが、あと２年から３年ほどかけてコロナ禍前の入館者数くらいに戻っていくのではないかと思います。古文書講座の開催曜日は講師の都合によります。平日でないと都合がつかない先生にお願いしているため、検討の余地があるかもしれません。かつては土日に郷土史の講座を開催していたこともあります。また、博物館のホームページは、市のトップページから見て下の階層にあるので、見つけるまでに時間がかかるのは事実です。ただ、博物館のページに辿り着くまでの構造を改善することは難しいです。

神田委員　　さいたま市の階層の下に博物館のページがあるという話ですが、ここを変えることは難しいのでしょうか。

宮瀧委員　　ホームページの改善は予算と関係ないのではないですか。ホームページの管理を各博物館の職員ができるようにして、各館がホームページの充実を図ったほうが良いと思います。なぜ、さいたま市役所から入らないといけないのでしょうか。先ほど、スマートフォンで浦和博物館のホームページを見ました。ここにも少し書いてあるように、建物は鳳翔閣を復元したものですが、年報に掲載されているほうが詳しくて、ホームページに少ししか出てこない上に、文章が途中で見えなくなっている箇所もありました。管理をきちんとしていれば、文章が見えなくなっていても、気が付いて直すと思いま

す。毎日職員が確認していないのではないかと思います。一方で、浦和レッズは公式のホームページには詳しくエンブレムの説明が書いてありますし、浦和博物館のことまで書いてくれています。だから浦和レッズのホームページをクリックしてしまいます。浦和レッズとの関係から言えば、浦和博物館のホームページに飛ぶようにできますよね。浦和区役所ロビーに浦和レッズの選手が並んでいるぐらいですから。これだけ協議会で意見が出ていますから、すぐにできることはやってください。検討ではなく、喫緊の課題だと思います。先送りしないで今年度中にできることは今年度やって、来年度当初予算要求がこれから始まると思いますから、そこで必要なものは要求するというふうにやっていかないと変わりません。まずホームページを充実させて、そこでいつか行ってみたいなというアクセス数を増やして、いつか来てもらう、となるにはホームページに魅力がないと誰も来ないと思います。特にスマホで見られるホームページは、大学も同じですが、高校生たちが様々な大学を調べた上で受験を決めるからホームページ命です。さいたま市役所のホームページから入っても全然充実していませんので、できるところからやっていただけないでしょうか。浦和レッズのホームページから博物館のホームページに飛ぶようにお願いして、作ってもらえれば、相当な人がアクセスすると思います。相互協力は簡単にできると思います。そういうことを皆さんがやるという意識があるかどうだと思います。ぜひできることからやってください。

広田委員　デジタルトランスフォーメーションの話が出ていますが、市全体としては、デジタル関係の方向性はどうなのでしょうか。

亘理委員　神田委員のお話にあった、市のホームページから離れて独自に作るとなると、簡単なものでも 30 万円から 50 万円はかかると思います。リンクを貼るという話は簡単ですが、かなり詳しい人でないと独自で作れないですし、予算が必要です。やはり予算がないことには話が進まないですし、現状の市のホームページの中でリンクを貼ったり、少し文書を書き換えたり、既存のホームページの中でできると思いますが、いかがですか。

神田委員　素直に言えばお金はかかってきます。ただし中途半端なものをやってしまうと、データを抜かれてしまうというセキュリティー面の不安があります。一時期、複数の自治体の情報が筒抜けだったものを見てしまったこともあります。やろうと思うとお金もかかるので、すぐできないかもしれません。ただ、少し手を加えれば導入の部分だけでも変更して下までいかないようにすることは大した話ではないと思います。そこだけでも手を加えて、階層構造のスタイルを変えてみることは、さほど難しい話ではないと思います。まだ博物館ホームページの中身全部を見ていませんが、できるところから

でいいと思います。

坂野委員　昨日、浦和博物館がリニューアルした時の動画を、ＹｏｕＴｕｂｅで見ました。ＹｏｕＴｕｂｅで動画作成することはホームページを作るよりも簡単なものでしょうか。

神田委員　どういうものを作るのかという内容次第ですね。ですので、本当に見てもらえるような動画を作るとなると、それなりの編集作業が必要です。ＹｏｕＴｕｂｅそのものは無料ですが、動画を作るという行為には少なからずお金がかかります。

坂野委員　昨日見た動画を誰が作ったのかは確認しませんでしたが、若い方は割とＹｏｕＴｕｂｅを見るので、ホームページも１つのやり方だと思いますが、ＹｏｕＴｕｂｅで見せても良いと思います。

神田委員　Ｘ（旧 Twitter）を含めた複数の SNS など様々な媒体を使っていくと良いと思います。博物館との相性がどうなのかという問題もありますが、若い方はティックトックを使っている方も多いと思います。できる余地はあると思いますので、できるところから使うのが良いのではないでしょうか。

坂野委員　ＳＮＳを使っていて、特に若い人をターゲットとして集めているということを、授業で使う関係で調べたことがあります。そういうやり方もあると思います。良い点と悪い点があると思いますが、ホームページはもう少し改善できないかなと思いました。

宮瀧委員　ホームページの予算の話戻りますが、埼玉県の博物館はどうやっているのですか。

杉山委員　各館でおこなっています。

宮瀧委員　やはり各館で職員が行っていますよね。県庁のホームページから入っていかなければいけないことになってないですし、学芸員がコラムを連載したりすれば良いのではないかと思います。

広田委員　あらかじめ、各館にホームページの権限が割り当てられるところまで至っていないということですか。

宮瀧委員　全庁管理のようになっているのだと思います。ブログのように、今日はこういうイベントがあって、あと何席空いていますというようなことを職員が書き込めるようなホームページがないと全然面白くないですよね。県立施設は独自に各館が自由にやっています。それがどうしてできないのでしょうか。

議　　長　今回から、新しい委員の中に詳しい方も増えましたので、意見をいただいて相談しながら、進めていただければと思います。

事 務 局　現段階では、市のホームページの階層の中の１つとして、博物館が位置付けられていて、その中で運営をしています。

宮瀧委員　　それを皆さんが独自にやりたいって声を上げていただければいいと思います。

事 務 局　　そのように、広報部門に打診していきます。

宮瀧委員　　各館や館長からそういう声が上がらなければ、市の広報部門の方から動いてくれるわけではないと思います。それぞれ各館で独自に管理したいという声を上げてください。部長がそれを後押ししなければ、変わっていかないと思います。

亘理委員　　今のお話にあった公開講座などの案内は、ＳＮＳであれば費用がかかりません。ＳＮＳやメーリングリストは費用がかからないので、できると思いますが、ＳＮＳ内で認知をしてもらうためには定期的に発信していかなければいけないので、担当する職員がいないとなかなか難しいと思います。やはりＳＮＳが今一番早い方法だと思います。

事 務 局　　神田委員のご質問の４番目、他館との共催についてです。この後の議題となっている企画展「鴻沼」は当館で実施しますが、併せて鴻沼資料館にも来た人の足を向けていきたいと思っています。過去に、各館が持っているお茶に関連した資料の展示を、市立博物館以外の館で開催したこともあります。それぞれの館が持っている資料の中で共通する題材を見つけて、同じ時期に開催して回遊してもらうことは可能だと思いますので、今後考えていきたいです。

松岡委員　　展示について市立博物館の企画展や特別展は開催期間が決まっていますが、その期間以外、特別展示室は閉じたままなのでしょうか。以前は外部に貸し出しをしていたような記憶があります。現在は外部貸し出しも含めて、展示をしていない期間はどういった使い方をされていますか。

事 務 局　　年間で大きな展示を４本特別展示室で行っています。１つの展示が終わって、片付けをして、次の展示の準備をして開催するとなると、約１ヶ月間を片付け・準備に充てざるを得ない状況です。かつては年間の主催展示の回数が少なかったので、貸し出しも行っていました。現在も、貸し出しすることは可能ですが、実質的には外部の団体にお貸しできる期間が当館の展示の事情で今のような状況になっています。この各展示の間の約１ヶ月間は、常設展示のみを公開しています。

松岡委員　　展示の内容についてお聞きします。開館当時は旧大宮市内で発掘調査が非常に盛んに行われた頃だったので考古学の担当の方が精力的にやっていました。ですから考古学の展示がすごく充実していて、今でもその流れできているのかと思います。やはり考古学の展示と民俗展示は大きな柱だと思いますが、歴史的な展示が少々寂しい気がします。特に中世・江戸時代と明治時代以降の展示が非常に寂しい気がします。その辺りをもう少し充実させると、

身近なものとして感じられる展示なるのではないかと思います。おまけのような形で震災の展示がありますのでもう少し工夫したり、氷川神社の展示も、もう少し目立つようにすると、地域的な魅力が生かされていくのではないかと思います。開館当時に作った展示も画期的なものではありますが、変化をさせることも大事かと思います。

事 務 局　　常設展示替えは先ほど申し上げたように、年に４回ほど行っていますが、縄文時代の展示は当館のメイン資料がそのまま出ている関係で、見に来られる方も多くいますので、変えていません。近代以降は資料の数は多いのですが展示しきれていない物もあります。展示ケースの数は現状以上増やすことができませんが、調整してもう少し近代以降の展示を充実させなければいけないという認識は持っています。

議　　長　　色々と意見が出ましたが、次の議題に移ります。続きまして、企画展「鴻沼」について説明を事務局からお願いします。

事 務 局　　会期は３月２日から６月９日の１００日間を予定しています。会場は市立博物館の特別展示室です。現在の中央区から桜区にかけて存在した鴻沼は、江戸時代の中頃まで周辺の村の農業用溜池でしたが、井沢弥惣兵衛が第８代将軍の徳川吉宗の命を受けて干拓と新田開発を行いました。その後約２８０年間、できた水路は農業用水の役割を担いました。現在は親水空間として生まれ変わっています。今回の企画展では、鴻沼の歴史的変遷を振り返りながら、鴻沼資料館に収蔵されている資料などを通して、鴻沼の全貌に迫ります。展示構成は１章から４章を考えています。第１章は鴻沼がどういう経緯でできたのかを紹介します。第２章は鴻沼の干拓について紹介します。第３章は鴻沼資料館にある米作りの農具を中心に展示します。第４章は近代以降の鴻沼がどう使われたのかについて触れます。関連講座２回と、学芸員による展示解説も予定しています。新しい試みとしてデジタル展示も考えています。

議　　長　　この企画展もＷｅｂ上で公開するとなっています。ホームページに行き着くまでの話や連携の話についても意見が出ましたが企画展「鴻沼」についてご意見をお願いします。

広田委員　　提案ですが、企画展をするにあたって、単純に無料のＳＮＳを活用しましょうというだけでは何も変わらない可能性もあると思います。例えば開館日数が８４日間であれば１日１回８４回のテーマで発信をするなど、１４０字では詳しく書ききれないと思いますが、数値の目標を立ててそれに合わせるのはいかがでしょうか。Ｘの発信回数は予め回数を決めていればその数だけ作ろうという準備ができるができると思います。

千葉委員　　Ｘの発信で、できるかどうか分からないですが、準備中の様子の発信は、

あまり負荷がかからないのではないかと思います。テーマ決めて話題作るのが大変だなということであれば、今日していることを呟いたり展示までのカウントダウンをしたり、やり方はたくさんあると思います。ルールがあるかもしれませんが、職員の負担にならないように普段の業務の延長線上でできるという観点で考えても良いのではないかと思いました。

議　　長　　企画展で鴻沼資料館のことも研究されると思います。テーマ的に環境と民具について紹介もあるので、もし小学生が企画展を見学するとしたら、鴻沼を知る入り口という意味で何か工夫ができたら良いのではないかと思います。伊藤委員いかがでしょうか。

伊藤委員　　今日はちょうど見沼通船堀の閘門の開閉実演が行われています。４年生が見沼代用水と井澤弥惣兵衛について学習するのは10月ぐらいです。鴻沼地域に関係する学校が中央区や桜区にありますし、私が赴任していた頃は実際に鴻沼の学習もしていました。企画展の会期と全く被っていないので残念ですが、デジタル展示をウェブ上で公開するという部分についてはぜひ、お願いしたいと思います。ただ、鴻沼だけを扱うとなると、鴻沼を知っている大人は興味があると思いますが、子供が興味を持つためには、見沼代用水や井澤弥惣兵衛との関わりを切り口にする方が良いかと思います。鴻沼だけだと、さいたま市の一部の地域に限定されて、近くに住んでいる方にしかわからない。見沼なども入ると、より、じゃあ行ってみようとなるのではと思います。学校にポスターがいただけるのであれば掲示しますし、それを見た子供たちの中から、家族で行ってみたいなと思う子供も出るのではないかと思います。井澤弥惣兵衛は、鴻沼と見沼代用水と両方に関わっている人だということを知ってもらえると、良いと思います。

宮瀧委員　　それと関連して、さいたま市の一部の人しか鴻沼を知らないのではないかというお話がありましたが、１章から４章の内容はこれで良いと思います。奈良時代に足立郡の特産物として平城京へヒシの実が運ばれています。埼玉郡からはハスの実が運ばれています。ということは、この辺りは河川が乱流して湿地帯だったということです。さいたま市の沼は全部湧水ですし氷川神社も湧水のあるところに社を建てています。この地域の特徴ですので、１章か４章に、そういった総論的な部分を入れないと、他地域から来た人や鴻沼を知らない人などは、鴻沼のこともわからなくなると思います。また章ごとの各論で終わってしまうので少しつまらないと思います。プロローグかエピローグで触れていただけるようご検討ください。

橋本委員　　さいたま市の教育行政点検評価委員会というものに属していて、一昨年この委員会で、ウェブ関連の新規予算がなかなかもらえていないというお話がありました。昨年、子供たちがみんなタブレットを持っている中での入

口として、ホームページが必要だから予算を検討して欲しいというお話をしました。今回、企画展「鴻沼」の展示とした形で動いてもらえることは良いことだと思います。なかなか思うようではないところがあるように思いますが、様々な意見がありましたから、予算がかからなくてもできる工夫をして、入り口としての役割を十分に果たしていけるようにしていただければありがたいなと思います。

初音委員　私は、この地域で育ったわけではないので、こういった展示で「へえ、そうだったのか」と学んでいます。子供よりも知識がないので、いろいろ勉強したいと思います。

小宮委員　主体性がなくて本当に知識が乏しいところで刺激を受けながらお話を聞いていました。私はファシリテーターとして、浦和区の公民館で小学生のお子さんを持つ親が来る講座を受け持つことがあります。その時に、博物館で折り紙をしたとか勾玉づくりをしたとかという話を聞いたときに、お手洗いの話が出ました。お手洗いがダメなんです、我慢してしまうんですとお母さんがおっしゃっていました。子供が和式トイレだと我慢してしまうようです。ですので、考えていただければいいなと思いました。

議　長　他にご意見ありますか。

亘理委員　先ほどもお話がありましたが、特に小学生に対しては学びが何かということに関して明確にしたほうが良いのかなと思います。例えば、民具を中心に展示する米づくりを紹介しても、昔はこうでしたという話で終わってしまうと何も広がりがないと思います。今の話と繋げないと、単に過去の物という話になってしまいます。今とどう繋げるかということを小学校低学年から中学生まで含めて、学びというものを考える機会がないと、学びの目的が今ひとつ曖昧な気がします。子供たちは自由な発想を持っていますから、もっと子供たちの意見を引き出して、これをどうやって使うとか、今だったら何の道具になるのか、或いは自分でやったらどう使うのか、どんな苦労があるのかとか、様々な広がりがあると思います。その広がりを子供たちから引き出してあげることが大事ではないかなと思います。知識をただ与えるだけではなくて子供たちが持っているものを引き出してあげて、特に今の自分たちと関連付けたものを学ばせたほうが良いかと思います。例えば、ポケット学芸員は費用がかかるものですか。ＱＲコードを読み込んで、子供向け・大人向け・専門家向けという説明がいろいろ出るものがあります。鉄道博物館は採用していますし、国立西洋美術館の企画展では声優が話した音声を流すのではなく、学芸員自身が話した音声を流していました。そういったものもあるのでポケット学芸員というものも、もし費用がかからないものであれば考えていただけると面白いと思います。

事 務 局　　企画展「鴻沼」の展示は鴻沼資料館の民具や古文書資料を中心に考えていますが、常設展と大して変わらない展示になってしまう恐れがあると思っています。開催時期が春休みからゴールデンウィークにかけての時期なので学校にもチラシを配って小学生たちにも見てもらいたい展示でもあります。今と繋げた展示の組み立てを、それぞれ章において考えながら、常設展示の紹介にならないようにしたいと考えています。ＱＲコードの件もご意見いただきましたが、極力学芸員自身が展示室にいて、来館者から質問があればその場で個別に対応していきたいと思っています。関連事業で学芸員による展示解説は土日を想定しています。それ以外の平日も学芸員が来館者の質問に直接対応する形を考えています。

松岡委員　　ボランティアが解説するようなそういう制度はありますか。

事 務 局　　小学校の体験学習の時に民具の説明をするボランティアはいますが、展示を説明するボランティアはいません。現状では学芸員が行っています。

松岡委員　　そういうことでしたらお手伝いできるかなと思いますので協議会のメンバーとして、企画展の時にきちんと勉強させていただいて説明をすることはできるのではないかと思います。

議　　長　　学芸員がその都度対応するのは負担がかかると思います。ＱＲコードで済むならば活用して、その分を考える時間に充てて工夫をしていただければと思います。他にご意見ありますか。

杉山委員　　連携の関係で思い出したことがあります。私、大宮盆栽美術館の委員もやっていまして、盆栽美術館の議題で上がったものがあります。来年盆栽村ができて 100 年にあたるので大きな展覧会をやるのですが資料リストの中に市立博物の所蔵資料も入っていました。せっかく市立博物館にも資料があるのだから、同時期に連携して開催したほうがさいたま市としても、盛り上がるのではないかと思いました。ご検討いただければと思います。

神田委員　　過去の企画展のパンフレットが売り切れた後に同じものを見たいと思った時に、現在入手する手段はありますか。

事 務 局　　在庫がある図録は頒布しています。エントランスに見本を置いています。在庫がなくなった図録も閲覧することは可能です。市立博物館ではラウンジで閲覧することができます。コピーを取りたいということであれば図書館を案内しています。在庫がない図録は図書館で借りることができます。

神田委員　　在庫がなくなった図録を電子書籍として出すことはできないのかなと思いました。また、そういった考えはあるのでしょうか。

宮瀧委員　　おそらく新たに許諾を取る必要がでてくると思います。冊子にするという条件で作ったものなので、ウェブ公開にあたって新たな許諾を取る過程は飛ばすことはできないと思います。雑誌もウェブ公開するときは全部許

諾を取り直さないといけません。冊子で出すという契約で所有者や提供者に許諾を取っていますが、本当はデジタル公開してもいいですよね。新たに作る図録だけでも、Ｗｅｂ公開の許諾も含めて所有者や写真の提供者に許諾を取る手続きを入れたらいかがですか。紙媒体で購入することは、私は大事だと思っていますが、そう思わない方も増えてきているから全部そうしたほうがいいと思います。

広田委員　　新たな許諾を取ることが大変だということであれば、今後を考えるとデジタル公開も含めた調整を進めていただければと思います。

宮瀧委員　　さいたま市史は紙媒体と同時に最初からＷｅｂ公開をしています。アーカイブズセンターでは、さいたま市史は紙媒体も買えるし、電子版も公開しているように、同じ庁内で両方実施している所管もあるので、連携されたらいいかと思います。

議　　長　　今回新しい視点をもった前向きな意見が出ました。中には厳しい意見もありますが、差し迫った問題もあります。連携を図ってより良い博物館運営ができるようにお願いいたします。議事については、これで終了いたします。